

[原 著]

老人クラブ参加者の性別・年齢別の社会参加状況と社会活動への意向

池森 康裕

北海道医療大学看護福祉学部臨床福祉学科

要 旨

本研究は、老人クラブ参加者の社会活動状況を明らかにし、活動領域の意向を性・年齢別に分類して特徴を検討した。結果、社会活動に参加している高齢者は、健康であること、家族などの同居者がいること。活動理由は、知り合いを増す、地域に貢献できる、やりがいを感じられることがあげられた。ボランティア活動では、75歳以上の女性が他の母集団に比べて有意に活動状況が低かった。活動的であった74歳以下の男性は、体力を必要とする活動に社会的役割を求め、75歳以上の男性は、食・安全・趣味の領域で活動希望が高かった。収入を伴う活動への参加希望は、ボランティア活動より2～3割低い。女性高齢者は、趣味活動に興味を示すとともに、家庭を守ることを意識していることが明らかとなった。

キーワード

高齢者、社会活動、活動意向

I. はじめに

これまでの、わが国における高齢者福祉サービスの主要課題は、要介護高齢者への支援が中心に進められてきた。確かに超高齢社会の進展を考えると、介護ニーズの長期化、重度化、多様化への対応は引き続き重要な課題である。一方で、高齢者の約8割は介護を必要としていない高齢者であることが報告されている¹⁾。自立した高齢者の社会経済的エネルギーを活用し、高齢者が地域とのつながりを持ち続けることは、高齢者の健康、生きがい形成、主観的幸福感を高めるのに有効であるとする報告がなされている^{2,3)}。高齢者の知識や経験を社会で活かし、充実した高齢期を送ることが可能な社会システムの構築は、地域社会にとっても多くの恩恵を得ることができる。

高齢者の社会活動における非活動要因として岡本ら(2006)は、「失敗不安」「誘いが無い」「役立つ技術・知識・資格が無い」「体のつらさ」「親しい友人や仲間がいない」ことを挙げている⁴⁾。また、社会参加の促進要因として岡本(2007)は、「他者との結びつき」「活動情報へのアクセス」「活動へ結びつく後押し」の3つを挙げており⁵⁾、これらが関係し合いながら活動に至ることを指摘している。この活動条件を満たし得る組織として、全国に町内会単位で組織化された老人ク

ラブがある。また、高齢者の社会活動は男性の方が積極的であるとの報告^{6,7)}や、75歳以上の後期高齢者に、生理的機能や日常生活動作(ADL)の低下が目立つことが指摘されている⁸⁾。これらのことから、多くの高齢者が社会と関わりを持ち続けるためには、高齢者の属性に応じた活動意向を明らかにすることは有意義である。

そこで本研究は、老人クラブ参加者を対象に、性別・年齢別に社会活動の状況と活動の意向を明らかにし、活動支援の方向性を検討する。

II. 研究方法

1. 調査対象

北海道T市の単位老人クラブ31団体1445人(2010年8月現在)のうち、老人クラブの例会に参加していた会員607人に調査票を配布した。配布に当たっては、T市中央老人福祉センターの職員に協力を依頼した。調査期間は2010年9月15日～10月15日として、単位老人クラブの例会時に調査の趣旨を説明し、同意の得られた会員から郵送法によりアンケート調査票を回収した。

2. 調査項目

アンケート内容は長谷川(2010)が行った「団塊世代以降の社会貢献に向けた調査」⁹⁾の内容を一部改編し、基本属性4項目(性別、年齢、家族構成、健康観)と、特定非営利活動促進法に定める17項目(2010年9月現在)の特定非営利活動(Non Profit Organization以降NPO活動と略す)を参考に、社会活動状況、興味・関心のある活動や収入を伴う活動など5項目、こ

<連絡先>

池森 康裕

〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757

北海道医療大学看護福祉学部臨床福祉学科

TEL: 0133-23-1076 (研究室)

E-mail: sr528@hoku-iryō-u.ac.jp

れに自由記載項目を加えた全10項目とし回答を求めた。

3. 分析方法

分析方法は、各調査項目について基本属性別（性別・75歳区分）に分類した後、基本属性・調査項目の集計結果に基づくクロス集計表を作成して、カイ2乗検定による統計仮説の検証を行った。5件法による回答は、「1. 全く思わない, 2. あまり思わない, 3. どちらでもない, 4. 少し思う, 5. とても思う」という順序尺度によるため俯瞰的傾向を観るために、回答1と2, 回答3と4と5を併せて2値（思う, 思わない）（ある, なし）に適宜再カテゴリー化して処理した。分析にあたっては統計解析ソフトPASW Statistics 18 for Windowsを使用した。

有意水準は5%とし、各変数では欠損値を除外したため、有効回答数が常に同一とはならなかった。

4. 倫理的配慮

今回の研究で得たデータ・情報は本研究以外では使用しないこと、質問紙への記載は無記名とし、個人を特定することはないという2点を書面にて説明し、同意を得られた老人クラブ会員を対象にした。

Ⅲ. 結果

調査対象者607人のうち、577人の回答が得られた（回収率95.1%）。そのうち無回答や基本属性が未記入の111人を除く、有効回答数466人（有効回答率78.6%）の結果をデータ解析した。

1. 基本属性と生活状況について

表1に回答者の属性と配偶者の有無を示した。有効回答数466人のうち74歳以下の人182人（39.1%）、75歳以上の人284人（60.9%）であった。それぞれの性別でみると、74歳以下の男性61人（13.1%）、女性121人（26.0%）と、女性が男性の2倍の人数であり、

75歳以上においては男性97人（20.8%）、女性187人（40.1%）と、75歳以下同様に女性が男性の2倍の人数であった。

1) 平均年齢

全体の平均年齢は76.9（±6.7）歳、性別では男性76.4（±6.1）歳、女性77.1（±7.0）歳で、全体の平均年齢と男女の平均年齢がほぼ同じ年齢を示した。年代別で見ても、70歳代の人々が全体の51.3%を占めていた。

2) 同居者の有無

同居者の有無を表1で示した。配偶者が「いる」と答えた人が全体で249人（59.0%）、性別で見ると男性128人（84.2%）、女性121人（44.8%）で、男性に配偶者がいることが多かった（ $p<.001$ ）。74歳以下の人では配偶者が117人（66.9%）、75歳以上の人では132人（53.4%）で、年齢が若いほど配偶者がいる率が高く（ $p<.05$ ）、それぞれの年代別においても、男性に配偶者がいることが有意に高かった。（ $p<.001$ ）

子どもとの同居の有無では、「いる」と答えた人が全体で138人（40.9%）、性別で見ると男性35人（32.7%）、女性103人（44.8%）で、女性の方が子どもと暮らしている率が高かった（ $p<.05$ ）。また、75歳区分で見ると、74歳以下の人では38人（30.4%）に対し、75歳以上の人では100人（47.2%）で、年齢が高い人の方が子どもと暮らしている率が有意に高かった（ $p<.005$ ）。

さらに、配偶者や子、親、その他の同居者を含めた「何かしらの同居者」の有無を見ると、全体では320人（70.3%）が何かしらの同居者と暮らしており、性別では男性134人（86.5%）、女性186人（62.0%）と男性が有意に高かった（ $p<.001$ ）。さらに75歳区分では、74歳以下の男性50人（84.7%）、女性77人（63.6%）で、男性が有意に高く（ $p<.005$ ）、75歳以上の男性84人（87.5%）、女性109人（60.9%）で、男性が有意に高かった（ $p<.001$ ）。老人クラブに参加する人たちには、同居者と生活していることが多い傾向にあった。

表1 回答者数の属性と同居者の状況（74歳以下182人、75歳以上284人、複数回答）

性別：区分	74歳以下			75歳以上			男女別		合計
	男性(61)	女性(121)	p値	男性(97)	女性(187)	p値	男性(158)	女性(308)	
配偶者 (n=422)	117(66.9%)			132(53.4%)			128	121	249*
	50(84.7%)	67(57.8%)	*	78(83.9%)	54(35.1%)	*	(84.2%)	(44.8%)	(59.0%)
親と同居 (n=280)	2(1.8%)			1(0.6%)			3	0	3
	2(5.1%)	0(0.0%)	n.s.	1(1.8%)	0(0.0%)	n.s.	(3.1%)	(0.0%)	(1.1%)
子と同居 (n=337)	38(30.4%)			100(47.2%)			35	103	138*
	9(22.5%)	29(34.1%)	n.s.	26(38.8%)	74(51.0%)	n.s.	(32.7%)	(44.8%)	(40.9%)
他の同居者 (n=265)	7(6.5%)			22(14.0%)			4	25	29*
	2(5.3%)	5(7.1%)	n.s.	2(3.8%)	20(19.2%)	*	(4.4%)	(14.4%)	(10.9%)
同居有り (n=455)	127(70.6%)			193(70.2%)			134	186	320*
	50(84.7%)	77(63.6%)	*	84(87.5%)	106(60.9%)	*	(86.5%)	(62.0%)	(70.3%)

* : $p<0.05$

2. 社会活動の参加状況

表2に社会活動の参加状況を示したが、欠損値が多く見られたため、欠損値は除外して分析した。よって、各質問項目の回答数は統一していない。

- 1) 趣味サークル活動 (N=330) では、229人 (69.4%) が「している」と回答した。性別や75歳区分に有意差は無く、74歳以下の男性26人 (59.1%)、女性71人 (75.5%)、75歳以上の男性48人 (73.8%)、女性84人 (66.1%) と、6割～7割の人が活動していた。
- 2) 町内会・自治会 (N=319) では、回答者198人 (62.1%) の人が「している」と回答した。性別や75歳区分に有意差は無く、男性82人 (67.2%)、女性116人 (58.9%) で、活動率では男性が女性を上回り、75歳区分においても6割以上の人が活動に参加していた。
- 3) ボランティア活動 (N=283) では、回答者の94人 (33.2%) が「している」と回答しており、男性46人 (45.1%)、女性48人 (26.5%) で男性の活動率が有意に高かった (p<.005)。また、年齢による

- 有意差が見られ、74歳以下の人は52人 (41.3%)、75歳以上の人は42人 (26.8%) で、年齢が若い人ほどボランティア活動に参加していた (p<.005)。さらに特徴的な結果として、75歳以上の女性は、他の母集団よりも活動状況が有意に低かった (p<.005)。
- 4) 学習・習い事 (N=268) は、回答者の94人 (35.1%) が「している」と回答していた。性別による違いは男性21人 (23.1%)、女性73人 (41.2%) と女性の方が男性よりも多く、性別による有意差が見られた (p<.005)。さらに74歳以下の男性7人 (17.5%)、女性36人 (46.8) で性別による有意差が見られた (p<.005)。75歳以上では有意差は見られなかったため、74歳以下の女性の参加率が高い傾向にあった。
 - 5) NPO 活動を行っている人は少なく、全体で8名 (3.5%) であった。

3. 社会活動への参加理由

社会活動への参加理由を5項目について質問した (表3)。全体では「知り合いを増やす」「地域貢献」

表2 社会活動の参加状況

性別：区分	74歳以下			75歳以上			男女別		合計
	男性	女性	p 値	男性	女性	p 値	男性	女性	
趣味・サークル (n=330)	97 (70.3%)			132 (68.8%)			74	155	229
	26 (59.1%)	71 (75.5%)	n.s.	48 (73.8%)	84 (66.1%)	n.s.	(67.9%)	(70.1%)	(69.4%)
町会・自治会 (n=319)	89 (64.5%)			109 (60.2%)			82	116	198
	35 (71.4%)	54 (60.7%)	n.s.	47 (64.5%)	62 (57.4%)	n.s.	(67.2%)	(58.9%)	(62.1%)
学習・習い事 (n=268)	43 (36.8%)			51 (33.8%)			21	73	94*
	7 (17.5%)	36 (46.8%)	*	14 (27.5%)	37 (37.0%)	n.s.	(23.1%)	(41.2%)	(35.1%)
ボランティア (n=283)	52 (41.3%)			42 (26.8%)			46	48	94*
	22 (50.0%)	30 (36.6%)	n.s.	24 (41.4%)	18 (18.2%)	*	(45.1%)	(26.5%)	(33.2%)
NPO 活動 (n=228)	5 (4.9%)			3 (2.4%)			2	6	8
	1 (2.9%)	4 (6.0%)	n.s.	1 (2.3%)	2 (2.4%)	n.s.	(2.5%)	(4.0%)	(3.5%)
その他	1	0	-	3	1	-	4	1	5

※参加状況については複数回答であり、欠損値は除外して統計処理を行ったため、各項目の合計は一致しない。 * : p<0.05
 ※上段は74歳以下と75歳以上の合計で、下段は74歳以下男女差と75歳以上の男女差を示している。

表3 社会活動への参加理由

性別：区分	74歳以下			75歳以上			男女別		合計
	男性	女性	p 値	男性	女性	p 値	男性	女性	
知り合いを増やす (n=260)	107 (88.4%)			116 (83.5%)			85	138	223
	36 (87.8%)	71 (88.8%)	n.s.	49 (84.5%)	67 (82.7%)	n.s.	(85.9%)	(85.7%)	(85.8%)
地域貢献 (n=255)	104 (86.7%)			108 (80.0%)			89	123	212
	38 (88.4%)	66 (85.7%)	n.s.	51 (83.6%)	57 (77.0%)	n.s.	(85.6%)	(81.5%)	(83.1%)
やりがい (n=284)	101 (85.6%)			129 (77.7%)			87	143	230
	33 (80.5%)	68 (88.3%)	n.s.	54 (78.3%)	75 (77.3%)	n.s.	(79.1%)	(82.2%)	(81.0%)
経験を生かす (n=236)	92 (83.6%)			86 (68.3%)			81	97	178*
	35 (87.5%)	57 (81.4%)	n.s.	46 (80.7%)	40 (58.0%)	*	(83.5%)	(69.8%)	(75.4%)
チャレンジ (n=245)	90 (78.9%)			86 (65.6%)			71	10	176
	33 (82.5%)	57 (77.0%)	n.s.	38 (66.7%)	48 (64.9%)	n.s.	(73.2%)	5 (70.9%)	(71.8%)
その他	0	0	-	0	1	-	0	1	1

※参加理由については複数回答であり、欠損値は除外して統計処理を行ったため、各項目の合計は一致しない。 * : p<0.05
 ※上段は74歳以下と75歳以上の合計で、下段は74歳以下男女差と75歳以上の男女差を示している。

「やりがい」「経験を生かす」「チャレンジ」の順で高い結果となった。「経験を生かす」ことでは、男女差で男性が有意に高かった。

4. 興味・関心のある社会活動

興味・関心のある社会活動について、5項目の質問をした(表4)。75歳以上の女性のみが他の母集団と比べて、有意に社会活動への興味・関心が低かった。

5. ボランティア活動の希望領域

NPO活動に定められた活動分野をもとに、ボランティア活動への希望について表5にまとめた。全体の上位3位が「食品・農業」「地域安全」「文化・芸術・スポーツ」で、75歳以上の女性を除き、8割～9割の人が活動希望を示していた。75歳以上の女性は、4割～5割程度にとどまり、他の母集団と比べて有意に低かった。

表4 興味・関心のある社会活動

性別：区分	74歳以下			75歳以上			男女別		合計
	男性	女性	p 値	男性	女性	p 値	男性	女性	
趣味・サークル (n=321)	129(91.5%)			146(81.1%)			111	164	275
	43(89.6%)	86(92.5%)	n.s.	68(89.5%)	78(75.0%)	*	(89.5%)	(83.2%)	(85.7%)
町内会・自治会 (n=301)	114(83.2%)			117(71.3%)			100	131	231
	42(84.0%)	72(82.8%)	n.s.	58(81.7%)	59(63.4%)	*	(82.6%)	(72.8%)	(76.7%)
学習・習い事 (n=279)	109(85.2%)			99(65.6%)			83	125	208
	37(82.2%)	72(86.7%)	n.s.	46(76.7%)	53(58.2%)	*	(79.0%)	(71.8%)	(74.6%)
ボランティア (n=287)	106(79.7%)			96(62.3%)			94	108	202*
	40(83.3%)	66(77.6%)	n.s.	54(84.4%)	42(46.7%)	*	(83.9%)	(61.7%)	(70.4%)
NPO 活動 (n=249)	76(65.5%)			63(47.4%)			70	69	139*
	31(73.8%)	45(60.8%)	n.s.	39(72.2%)	24(30.4%)	*	(72.9%)	(45.1%)	(55.8%)
その他	0	0	-	1	0	-	0	1	1

※興味関心のある活動については複数回答であり、欠損値は除外して統計処理を行ったため、各項目の合計は一致しない。 * : p<0.05
※上段は74歳以下と75歳以上の合計で、下段は74歳以下男女差と75歳以上の男女差を示している。

表5 ボランティア活動の希望領域

性別：区分	74歳以下			75歳以上			男女別		合計
	男性	女性	p 値	男性	女性	p 値	男性	女性	
食品・農業 (n=284)	116(87.9%)			104(68.4%)			92	128	220*
	38(90.5%)	78(86.7%)	n.s.	54(87.1%)	50(55.6%)	*	(88.5%)	(71.1%)	(77.5%)
地域安全 (n=278)	117(90.0%)			96(64.9%)			95	118	213*
	40(90.9%)	77(89.5%)	n.s.	55(88.7%)	41(47.7%)	*	(89.6%)	(68.6%)	(76.6%)
文化・芸術・体育 (n=280)	113(86.3%)			98(65.8%)			93	118	211*
	41(93.2%)	72(82.8%)	n.s.	52(85.2%)	46(52.3%)	*	(88.6%)	(67.4%)	(75.4%)
産業・消費者保護 (n=270)	111(86.7%)			90(63.4%)			89	112	201*
	38(86.4%)	73(86.9%)	n.s.	51(85.0%)	39(47.6%)	*	(85.6%)	(67.5%)	(74.4%)
環境・リサイクル (n=281)	117(88.0%)			91(61.5%)			93	115	208
	39(88.6%)	78(87.6%)	n.s.	54(85.7%)	37(43.5%)	*	(86.9%)	(66.1%)	(74.0%)
人権・平和 (n=270)	106(86.2%)			91(61.9%)			86	111	197*
	37(88.1%)	69(85.2%)	n.s.	49(83.1%)	42(47.7%)	*	(85.1%)	(65.7%)	(73.0%)
まちづくり (n=290)	115(85.2%)			96(61.9%)			91	120	211*
	39(88.6%)	76(83.5%)	n.s.	52(82.5%)	44(47.8%)	*	(85.0%)	(65.6%)	(72.8%)
災害・救援 (n=275)	108(85.0%)			88(59.5%)			89	107	196*
	39(90.7%)	69(82.1%)	n.s.	50(80.6%)	38(44.2%)	*	(84.8%)	(62.9%)	(71.3%)
男女共同参画 (n=276)	106(84.1%)			90(60.0%)			87	109	196*
	38(88.4%)	68(81.9%)	n.s.	49(79.0%)	41(46.6%)	*	(82.9%)	(63.7%)	(71.0%)
子育て支援 (n=268)	102(83.6%)			81(55.5%)			79	104	183*
	37(86.0%)	65(82.3%)	n.s.	42(73.7%)	39(43.8%)	*	(79.0%)	(61.9%)	(68.3%)
保健・医療・福祉 (n=307)	111(78.2%)			93(56.4%)			94	110	204*
	39(84.8%)	72(75.0%)	n.s.	55(82.1%)	38(38.8%)	*	(83.2%)	(56.7%)	(66.4%)
国際協力・交流 (n=268)	99(80.5%)			76(52.4%)			78	97	175*
	36(83.7%)	63(78.8%)	n.s.	42(71.2%)	34(39.5%)	*	(76.5%)	(58.4%)	(65.3%)
社会教育・生涯学習 (n=278)	95(73.1%)			77(52.0%)			80	92	172*
	34(79.1%)	61(70.1%)	n.s.	46(79.3%)	31(34.4%)	*	(79.2%)	(52.0%)	(61.9%)
その他	0	0	-	0	0	-	0	0	0

※ボランティア活動の希望領域については複数回答であり、欠損値は除外して統計処理を行ったため、各項目の合計は一致しない。 * : p<0.05
※上段は74歳以下と75歳以上の合計で、下段は74歳以下男女差と75歳以上の男女差を示している。

6. 収入を伴う社会活動の希望領域

収入を伴う社会活動の希望を表6にまとめた。上位の分野は興味・関心のあるボランティア活動項目と同様の傾向を示したが、希望者の割合は低かった。上位の3つは「食品・農業」「地域安全」「文化・芸術・スポーツ」の順で高く、75歳以上の女性を除いた、6割～7割の人が活動を希望していた。75歳以上の女性は2割程度で、他の母集団と比べて有意に低い結果であった。

IV 考察

1. 調査対象者の特徴

老人クラブ参加者の特徴として、女性の参加者が多い。これは男女の平均寿命の差も影響していると考えられるが、74歳以下においても女性の割合が多いことから、平均寿命以外の要因も関連していると推察される。参加者には同居の家族がいる場合が多く、その傾向は男性が多かった。「配偶者の有無が社会活動に関連していた」とする先行研究^{10,11)}を踏まえると、老人クラブ入会時は夫婦で登録して活動していたことが考えられる。さらに活動を行っている高齢者は、健康や体力に自信があり、家族等により生活の支援が受けられることで、老人クラブや他の社会活動に参加しやす

いと考えられる。

2. 男性クラブ会員の特徵

1) 74歳以下の男性クラブ会員の特徵

74歳以下の男性8割以上が配偶者と暮らしており、高い健康観を有していた。社会活動の参加状況では、「町内会・自治会」「ボランティア活動」が、他の母集団に比べて最も高かった。「男性は女性よりも積極的に社会活動を行っている」と指摘する先行研究と同様の結果が示された^{6,7)}。さらに年齢で比較しても、最も社会的活動に参加している集団であった。NPO活動では、7割以上の方が興味・関心を示していたが、実際に活動している人は2.9%であった。希望があっても参加につながらない要因として、①地域の活動団体数が少ないこと、②希望に沿う活動内容がないことなどが考えられる。実際にT市で活動している団体数は7団体で、活動領域は複数に渡り「保健・医療・福祉の増進を図る活動」3件、「社会教育を図る活動」1件、「まちづくりの推進を図る活動」3件、「学術・文化・芸術・スポーツの振興を図る活動」3件、「子どもの健全育成を図る活動」2件、「経済活動の活性化を図る活動」1件、「NPO活動を行う団体支援」3件(2010年12月現在)¹²⁾である。調査結果から示さ

表6 収入を伴う社会活動の希望領域

性別：区分	74歳以下			75歳以上			男女別		合計
	男性	女性	p 値	男性	女性	p 値	男性	女性	
食品・農業 (n=286)	84(65.6%) -			62(39.2%) *			76	70	146*
	33(73.3%)	51(61.4%)	n.s.	43(62.3%)	19(21.3%)	*	(66.7%)	(40.7%)	(51.0%)
環境・リサイクル (n=294)	90(65.2%) -			58(37.2%) *			66	82	148
	30(63.8%)	60(65.9%)	n.s.	36(52.9%)	22(25.0%)	*	(57.4%)	(45.8%)	(50.3%)
文化・芸術・体育 (n=295)	82(60.7%) -			64(40.0%) *			73	73	146*
	31(67.4%)	51(57.3%)	n.s.	42(60.9%)	22(24.2%)	*	(63.5%)	(40.6%)	(49.5%)
地域安全 (n=284)	80(63.5%) -			60(38.0%) *			73	67	140*
	32(71.1%)	48(59.3%)	n.s.	41(60.3%)	19(21.1%)	*	(64.6%)	(39.2%)	(49.3%)
産業・消費者保護 (n=282)	81(62.3%) -			57(37.5%) *			70	68	138*
	31(68.9%)	50(58.8%)	n.s.	39(58.2%)	18(21.2%)	*	(62.5%)	(40.0%)	(48.9%)
災害救援 (n=286)	79(60.8%) -			57(36.5%) *			70	66	136*
	31(66.0%)	48(57.8%)	n.s.	39(56.5%)	18(20.7%)	*	(60.3%)	(38.8%)	(47.6%)
まちづくり (n=291)	85(62.5%) -			53(34.2%) *			67	71	138*
	30(65.2%)	55(61.1%)	n.s.	37(56.9%)	16(17.8%)	*	(60.4%)	(39.4%)	(47.4%)
人権・平和 (n=284)	78(59.5%) -			56(36.6%) *			68	66	134*
	29(64.4%)	49(57.0%)	n.s.	39(58.2%)	17(19.8%)	*	(60.7%)	(38.4%)	(47.2%)
男女共同参画 (n=280)	76(59.8%) -			54(35.3%) *			66	64	130*
	28(65.1%)	48(57.1%)	n.s.	38(57.6%)	16(18.4%)	*	(60.6%)	(37.4%)	(46.4%)
育児・子育て支援 (n=282)	76(58.9%) -			52(34.0%) *			63	65	128*
	28(60.9%)	48(57.8%)	n.s.	35(52.2%)	17(19.8%)	*	(55.8%)	(38.5%)	(45.4%)
国際協力・交流 (n=278)	67(53.6%) -			54(35.3%) *			63	58	121*
	25(56.8%)	42(51.9%)	n.s.	38(56.7%)	16(18.6%)	*	(56.8%)	(34.7%)	(43.5%)
保健・医療・福祉 (n=306)	70(50.7%) -			59(35.1) *			61	68	129*
	25(52.1%)	45(50.0%)	n.s.	36(50.0%)	23(24.0%)	*	(50.8%)	(36.6%)	(42.2%)
社会教育生涯学習 (n=287)	70(53.0%) -			48(31.0%) *			59	59	118*
	27(57.4%)	43(50.6%)	n.s.	32(46.4%)	16(18.6%)	*	(50.9%)	(34.5%)	(41.1%)
その他	0	0	-	0	0	-	0	0	0

※収入を伴う社会活動の希望領域については複数回答であり、欠損値は除外して統計処理を行ったため、各項目の合計は一致しない。 * : p<0.05
 ※上段は74歳以下と75歳以上の合計で、下段は74歳以下男女差と75歳以上の男女差を示している。

れた希望する活動領域と、実際に活動している団体の活動領域に隔たりが見られることから、活動まで繋がっていないことが考えられる。これらはボランティア活動の希望領域別で分析しても、「文化・芸術・体育」「地域安全」「災害・救援」といった、体力を必要とする活動意志が高く、まだ身体的な老いを感じていないのではないだろうか。

2) 75歳以上の男性クラブ会員の特徵

75歳以上の男性は、74歳以下の男性と似た傾向が見られた。配偶者と暮らす割合が高いこと、健康観が高いこと、社会活動の参加状況では「趣味・サークル」が一番高いが、「町内会・自治会」「ボランティア活動」などの社会的活動には、同年代の女性よりも積極的に参加している。ボランティア活動の希望領域では、全項目において7～9割の高い興味・関心を示しており、上位3つでは「地域安全」「食品・農業」「環境・リサイクル」で、74歳以下の人と同様に高い傾向を示した。これらは上記で述べた、「男性が女性よりも積極的に社会活動を行っている」とする先行研究の結果は、75歳以上の男性でも同様であった。生活で重視することは、「趣味」が最も高く、次いで「健康」「家庭」「仲間との交流」の順で高く、加齢にともなう体力の低下により、社会的活動よりも個人的活動を重視する傾向にあると考えられる。

75歳以上の男性は、個人的生活を重視しつつも、社会活動の参加理由に「知り合いを増やす」「地域貢献」「経験を生かす」ことを理由に挙げており、役割意識が消失していないことが伺える。江原(2010)は、「多くの男性は、『稼ぎ手役割』=職業人として生活してきたことから、退職(役割喪失)によってアイデンティティの喪失につながる」と指摘している¹³⁾。男性高齢者は、75歳を超えても社会的役割を求め続けていることが考えられる。

3. 女性クラブ会員の特徵

1) 74歳以下の女性クラブ会員の特徵

74歳以下の女性は、配偶者との同居割合が男性より低く57.8%で、4割の人が一人暮らしであった。健康観については82.6%が高い健康観を有していた。

社会活動の参加状況の上位3つは、「趣味・サークル」「学習・習い事」「町内会・自治会」の順に高く、「趣味・サークル」「学習・習い事」では、他の母集団と比べて一番高い傾向となり、「趣味活動には女性参加者が多い」とする先行研究と同様の結果となった⁷⁾。これら個人的活動への参加理由は、「知り合いを増やす」「やりがい」「地域貢献」の順に高いことから、「趣味」や「習い事」を通して知人を増やし、やりがいや生きがいを感じながら地域と関わりを持ちたいと考えていることが伺える。

一方で、ボランティア活動や収入を伴う活動への興

味・関心は、男性と同様に高い結果が示され、内容としては、食品・安全をキーワードにリサイクル可能なまちづくりに興味があると考えられる。

2) 75歳以上の女性クラブ会員の特徵

75歳以上の女性は、調査対象者全体の4割を占め、その存在はさまざまな政策や活動においても、軽視できない存在である。本調査において75歳以上の女性の特徴は、活動状況や興味・関心のある活動、さらにボランティア活動や収入を伴う活動が、他の母集団と比べて有意に低かった。全体的に低い活動状況の中、「趣味・サークル活動」や「学習・習い事」に参加している人は、比較的の高い傾向にあり「趣味活動には女性参加者が多い⁷⁾とする報告が支持され、「男性が女性よりも積極的に社会活動を行っている」^{6,7)}と指摘する先行研究が顕著な形で現れる結果となった。

活動を行う理由は、74歳以下の女性同様に「知り合いを増やす」「やりがい」「地域貢献」の順に高く、「経験を生かす」ことは他の母集団と比べて一番低いことから、活かせる知識や技術に自信の無さが伺える。また、生活で重視したい項目では、「家庭」「健康」「趣味」「仲間との交流」の順に高く、家庭を最も重んじている傾向が明らかとなった。江原(2010)は、「かつての日本社会は、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方に賛成する人が多く、実際にも多くの高齢者はこの考え方を機軸に家庭生活を営んできた」と指摘し、「それを遂行することは、アイデンティティの維持や自尊心にとって、不可欠のものであった」と述べている¹³⁾。女性高齢者が、趣味などの個人的活動に意向が強い理由には、「家庭を守る」ことを良しとする、昔ながらの性役割が75歳以上の女性には特に強い影響があると考えられる。

4. NPO 活動の可能性

調査時(2010年10月現在)のNPO法人の認証数は、全国で41,411法人である¹²⁾。本調査で、活動希望が多かった「食品・農業」といった項目は存在しないが、富吉(2010)は、NPOポータルサイト上の「全国NPO法人情報の検索」において、活動目的に「農」の文字で検索した結果、2008年7月時点で、全国に農業系NPO法人が943件あることを明らかにした。さらにこれらをグルーピングした結果、農業支援(268件)、農業体験(214件)、食(183件)、担い手(144件)、有機農業(134件)などのキーワードに分かれることを述べている¹³⁾。調査対象としたT市は、農業・工業・商業で栄えた街であるため、高齢者が「食品・農業」に興味・関心が高い結果であったと考えられる。しかし、T市のNPO団体数は7団体で、活動領域は限られた内容となっている。T市では、調査対象者が希望する活動領域の活動が存在しないので、活動意向が満たされない状況にあるのではないだろうか。

今後は、75歳以上の女性たちが抱える生活ニーズを満たすためにも、活動意欲が高い男性と74歳以下の女性の活躍が期待される。

V 結論

老人クラブ参加者を、性別・年齢別に社会参加の状況と活動への意向について分析した結果、以下のことが示された。活動的な高齢者は健康であり、家族などの同居者がいる。活動理由は男女ともに、「知り合いを増す」、「地域に貢献できる」、「やりがいを感じられる」ことがあげられる。

活動状況では、75歳以上の女性は他の母集団に比べて有意に低く、74歳以下の男性は、体力を必要とする活動に社会的役割を求めており、75歳以上の男性は、食・安全・趣味の領域で活動希望が高かった。収入を伴う活動への参加希望は、ボランティア活動に比べて2～3割低い。女性高齢者は、趣味活動に高い興味・関心を示すとともに、年齢が高まることにより家庭を守ることを意識していることが明らかとなった。

以上の結果から、老人クラブ参加者の活動支援には性別や年齢に応じた、意図的な支援システム作りが求められることが示唆された。

謝辞

稿を終えるにあたり、本研究にご協力いただきましたT市老人クラブ連合会会長を始め、中央老人福祉センターの皆様、老人クラブ会員の皆様に心より御礼申し上げます。なお、本論文は平成22年度東北福祉大学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻修士論文の一部を加筆・修正したものである。

文献

- 1) 厚生統計協会編. 厚生指標・国民の福祉の動向, 臨時増刊. 50(12), 厚生統計協会, 2003年, pp181.
- 2) 中村好一, 金子勇, 河村優子他. 在宅高齢者の主観的健康感と関連する因子. 日本公衆衛生雑誌 2002; 49: 409-416.
- 3) 畠山寛. 高齢者のクラブ活動と生きがい感との関連. 鳥取短期大学研究紀要2006; 53: 1-6.
- 4) 岡本秀明, 岡田進一, 白澤政和. 高齢者の社会活動における非活動要因の分析—社会活動における非活動要因の分析—. 社会福祉学2006; 46(3): 48-61.
- 5) 岡本秀明. 高齢者における社会活動の促進・阻害要因の検討—独居・要介護・在日韓国人へのインタビュー調査から—. 社会福祉学2007; 48(4): 146-160.
- 6) 玉腰暁子, 青木利恵, 大野良之他. 高齢者における社会活動の実態. 日本公衆衛生雑誌1995; 42

(10): 888-896.

- 7) 加藤恵子, 池上久子, 鶴原香代子他. 高齢者の日常生活における社会活動と個人活動. 名古屋文理短期大学紀要2001; 26: 27-34.
- 8) 大内尉義. 医学的観点から見た後期高齢者と前期高齢者の違いについて. 第20回社会保障審議会医療保険部会(提出資料); 厚生労働省, 平成17年9月21日.
- 9) 長谷川聡. 団塊の世代以降の社会参加に向けたアンケート調査. 「団塊世代以降の社会貢献に向けた調査並びにプログラム策定事業報告書」, (財)健康・生きがい開発財団, 2010年, pp43-53.
- 10) 佐藤秀紀, 佐藤秀一, 山下弘二他. 地域在宅高齢者の社会活動に関連する要因. 厚生指標2001; 48(11): 12-21.
- 11) 金貞任, 新開省二, 熊谷修他. 地域中高年者の社会参加の現状とその関連要因—埼玉県鳩山町の調査から. 日本公衆衛生雑誌2004; 51(5): 322-334.
- 12) 内閣府 NPO ホームページ. NPO 法人認定(活動分野別) 2010年12月15日, <https://www.npo-homepage.go.jp/index.html>.
- 13) 江原由美子著. 高齢社会とジェンダー・ロール—日本の現状と課題—. 「高齢社会考—われわれはいかに生き抜くべきか—」, 斎藤正行編, ワールドプランニング, 2010年, pp97-107.
- 14) 冨吉満之. データベースを利用した農業分野のNPO法人の分類と地理的分布. システム農学 2010; 26(4): 159-166.

受付: 2013年11月30日

受理: 2014年3月6日

Activity Needs and Social Participation of Senior Citizen Club Members, Analyzed by Age and Gender

Yasuhiro Ikemori

Department of Clinical Social Work, School of Nursing and Social Services, Health Sciences University of Hokkaido

Abstract

This study clarified the current social interactions of senior citizen club members. Their need for activities was analyzed by features found in their different age and gender groups. It was found that elderly who continue to participate in society were healthy and have a stable family influence. Reason for participation was to increase acquaintance, to contribute to the community, and to feel personal fulfillment. Regarding volunteer work, females of 75 years old or over were found to be significantly inactive. Active males of 74 years old or under do physical activities to take a role in society, whereas males of 75 years or over wanted to be involved with activities regarding food, community safety, and hobbies. The majority of participants were motivated by volunteer work, with interest decreasing 20-30% when a job is paid. Elderly females were found to be interested in hobby work and protecting family.

Key words : Elderly, Social Activity, Activity intention